

## 2025 年はみんなで海外学会で発表しましょう！

国際医療福祉大学臨床検査医学 教授 下澤 達雄

### CVEM 会員の皆様

円安が想像を超えるスピードで進み、インフレもあり、海外学会に参加することが経済的にも難しくなっています。特に若手に発表に行ってもらうのは費用負担を考えると二の足を踏むのもよくわかります。オンラインのころは気軽でよかったなとも思いますが、オンラインだと時差があり、夜中に視聴しなければならない、質問を気軽にできないなどの問題があることも確かです。

そんな中、2024 年には Gordon Research Conference (GRC)、AHA High Blood Pressure Council (AHAHBRC)、AHA2024, International Society of Hypertension (ISH) の4つの CVEM 関連の学会、研究会に出席しました。GRC はレニンアンジオテンシン系に関わる研究会で二年に一度 NIH のサポートの下クロズドで開催されるものです。2024 年はイタリア、フィレンツェ郊外で開催され日本からも数名の参加者がありましたが、決して以前のように大多数ではなかったのは残念です。発表演題はすべて Unpublish のもので 10 分から 20 分の口演発表とポスター発表がありますが、全員同じホテルに 1 週間缶詰めになるので情報交換も盛んですし、質問もゆっくり考えてから空き時間にすることも可能です。レニン産生細胞の細胞生物学から ACE の話題など様々な基礎研究が発表されます。内容は口外しないことをサインしているのでここではご紹介できないのが残念ですが、ぜひ次回 2026 年おそらく米国で開催ですので、そちらにご参加いただき、ご自身の目でご確認ください。GRC の会期前日には GRseminar があり、こちらは PhD candidate や Fresh PhD が発表します。こちらでいい演題だと GRC でも発表することができ、NIH から旅費や参加費が支給されます。

AHAHBRC は日本の高血圧学会発祥のもととなった高血圧に関する AHA の分科会です。9 月にシカゴで行われました。参加者は 900 名ほどの小さい会ですが、高血圧の基礎、臨床に関して主に PhD、循環器内科、腎臓内科の MD が発表します。以前は教育講演や臨床の話題は少なかったのですが、最近は教育講演なども増えて臨床系の MD も楽しめるようになりました。3 日ほどみっちり高血圧の最新の話題を勉強するには最良の場です。日本の高血圧学会と異なるのは妊娠高血圧やメタボローム解析、エピゲノム研究に加え、パイプラインの薬物のデータも紹介されます。また、教科書でしか名前を聞いたことない大御所の先生方が（多くは 80 歳代ですが）、アクティブに自らオリジナルデータを発表したり、若手の発表に示唆に富む質問をしてくれるのも魅力です。もちろんいじわるなお年寄りもいます。。大体の参加者が会場のホテルに宿泊するので朝食や夕食の際に交流を深めることもできます。高血圧の基礎研究はラテン系の研究者が多いのも特徴で、GRC もそうですが、スペイン語ができるとやや有利かもしれません。

そのラテンのパワーが爆発したのは ISH でした。前回は伊藤裕先生会長の下日本で 3 回目になる ISH が京都で開催されました。CVEM も向山先生の会長の下 ISH 同時開催したのは記憶に新しいところです。2024 年は 10 月にカルタヘナ条約で有名なコロンビアのカルタヘナで行われましたが、毎晩参加者が遅くまで語り合い、踊り、呑むのも楽しい会でした。ISH は多くが臨床的な話題で、各国のガイドラインや疫学調査の結果なども発表されるため、基礎研究のネタ探しや

臨床応用の方向性を探るのにはいいかもしれません。こちらも GRC 同様二年に一度の開催です。

最後に 11 月にまた、シカゴでしたが、AHA の総会がありました。100 周年ということで様々な企画がありましたが、CKD をこえて Cardio-Metabolic Nephrology の概念にそった臨床演題や基礎研究が多く発表されていたのは CVEM の今後を考えるうえで大変参考になりました。また、新しい薬剤に関連して多くの心不全の演題がありましたが、パイプラインにあるアルドステロン合成阻害薬やリポ蛋白 (a) 関連の演題も目立ちました。AHA も心臓のみならず腎臓、血管、動脈硬化と幅広い分野を吸収してさらに発展を目指していることがよくわかります。こちらの学会では Pechakucha というセッションにて食塩感受性高血圧とナトリウム輸送体についてプレゼンテーションをしました (図)。Pechakucha とはその名が示すように日本が発祥なのですが、医学の領域ではあまり知られていない新しいプレゼンテーション方式です (<https://www.pechakucha.com/>)。Ted は皆様にもなじみがあるかと思いますが、こちらはさらにルールが厳しく 20 枚のスライドで一枚 20 秒でプレゼンします。強制的にスライドが送られてしまうためかなりの練習が必要ですが、聴いている方はだらだらしたつまらないプレゼンテーションより刺激的で時差ボケも忘れて楽しむことができました。終わった後に聴衆が投票で勝者が決まるのですが、僕が勝てるわけがないのはご想像の通りです。ちなみにこのプレゼンテーション資料を集めるために前の日にシカゴ美術館やシカゴの建築、シカゴ交響楽団で写真を撮って発表のために 9 時間以上かけたのですが、到底かないませんでした。。。

2025 年は GRC、ISH はありませんが、AHAHBRC はボルティモアで 9 月 4 日-7 日 (<https://professional.heart.org/en/meetings/hypertension>) 抄録受付は 5 月 21 日まで、AHA はニューオリンズで 11 月 7 日-10 日 (<https://professional.heart.org/en/meetings/scientific-sessions>) 抄録受付は 6 月 5 日までです。

学会会場あるいは周辺の店で皆様とお会いするのを楽しみにしております。

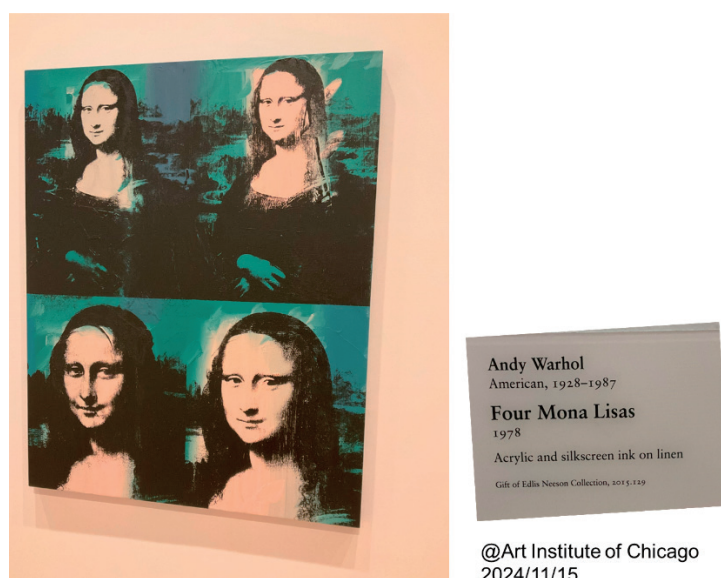


図 To solve the problem, I changed the direction. Different ways of thinking give us new ideas.